

軽スポーツやゲームを楽しんだよ スポーツレクリエーション祭

笠松町レクリエーション協会主催による第8回スポーツレクリエーション祭が11月23日、運動公園内運動場で240人が参加して行われました。

この大会は、今回で8回目を数え、聖徳学園大学のサークル「カッパの会」の学生たちが、ドッチビー・パラシュート・ボックスホッケーなど9種類の軽スポーツやゲームを手助けして、幼稚園児・小・中学生と保護者も一緒になって楽しい時間を過ごしました。

最初のゲーム「北風ともみじ」では、ケンケンして逃げるモミジを北風が追いかけて、最後まで逃げ切った少年もいました。



大きな幕を使っのパラシュートゲームを楽しむ子どもたち

また、町婦人会の皆さんが飲料のお手伝いし、参加者の乾いたのどを潤しました。

カメラの眼 まちの出来事



光得寺の梵鐘の説明を受ける参加者

再認識 地区の歴史と文化

史跡探訪とあんどん祭り

「知ろう！歩こう！感じよう！」と、中央公民館主催の「ふるさとかさまつ塾」が11月30日、下羽栗地区を舞台に開催されました。

参加した40人は、「笠松を語り継ぐ会」の皆さんの解説を聞き「光得寺の梵鐘」「土岐塚」「お成り道」「おふじの宮」「秋葉神社」「木曾川円城寺川並奉行館跡」の史跡を順次見て回りました。

続いて下羽栗会館では、毎年8月22日、円城寺の秋葉神社に奉納される「あんどん祭り」について、宮崎惇さんの講演を聴きました。

はじめに組単位で取り組むあんどんや屋形の作製・神社への奉納などの様子が映し出されるビデオで全ぼうを把握。祭りの起源について宮崎さんは「江戸時代から続いている」といわれ、「伝承に力を注ぐ地域の皆さんの努力に頭が下がる」と話されました。

参加者からは、「地元に住んでいても知らぬことばかり。とても勉強になった」などの声が聞かれました。

落ち葉をはき すっきりきれい 月美みどり会が墓地清掃

老人クラブの月美みどり会では、12月6日町営緑町墓地を清掃しました。月美みどり会は、平成18年から始められ、桜の落花と落葉の時期は2回以上そのほかの月は1回の年間16回墓地を清掃し、特にこの時期は、境川堤防の桜並木の枯葉が木枯らしに吹かれ、墓地一面をまるで絨毯を敷き詰めたように落ちています。

この日は、26人の会員が熊手やほうきで落ち葉を集め、落ち葉はごみ袋86袋にもなり、すっかり墓地はきれいになりました。

会員の方は、「お正月を控え、気持ちよくお墓参りされるよ



緑町墓地をきれいにはききよめる月美みどり会の皆さん

うにと思いから清掃をしています」と話されました。

会長さんは、「墓地清掃の奉仕活動やカラオケの娯楽などにより、会員相互の親睦やコミュニケーションを図っています」と話されていました。